

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 103-8210
 住 所 東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番10号
花王株式会社
 氏 名 代表取締役 社長執行役員 澤田 道隆
 (代理人) 川崎工場 工場長 田中 秀佳 印
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	花王株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	神奈川県川崎市川崎区浮島町1番2号		
該当する事業者 の要	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	衣料用・台所用合成洗剤、住居用洗剤、柔軟仕上げ剤、シャンプー、リンス及びボディシャンプー等		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		21,783 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	地区サービスセンター 環境安全
		所在地	神奈川県川崎市川崎区浮島町1番2号
		電話番号	044-288-8650
		FAX番号	044-266-4467
		メールアドレス	
※受付欄		※特記事項	※事業者番号 2002

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成28年度～平成30年度 (報告年度28年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	当社の環境への取組については、ホームページに公表しています。 Http://www.kao.com/jp/corp/eco/

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況(第1号、第2号、第4号該当者等)

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況(排出係数固定)

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	46,695 t-CO ₂ 46,517 t-CO ₂	43,044 t-CO ₂ 42,884 t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	46,000 t-CO ₂ 45,828 t-CO ₂
削減率		7.8 % 7.8 %	%	%	1.5 %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	生産重量		単位	t-CO ₂ /t	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量原単位等の値	0.1054	0.09495			0.1022
削減率		9.9 %			3.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	当工場においては、衣料用洗剤の粉末洗剤より超濃縮液体洗剤(アタックNeo等)への生産移行による燃料エネルギー使用量の低下や廃液焼却炉の濃淡分別による燃料削減。また、直管型蛍光灯照明のLED化、冷却塔の更新、蒸気ドレン回収水の再利用化、パッケージ型空調機への更新などの効果により、排出量は7.8%と大幅に減少し目標を達成した。また、原単位は基準年度比で9.9%の削減を図ることができこれは、省エネルギー活動および液体洗剤への移行による燃料削減効果と考えます。
第2年度	
第3年度	

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況(全社目標)

<p>○製品のライフサイクルすべての段階で環境負荷を低減させる活動の推進</p> <p>「花王 環境宣言」において、花王グループが2020年までにめざしているCO₂の削減量は、国内の消費者向け製品で2005年比マイナス35%(売上高原単位ベース)です。製品使用時の環境負荷低減、容器のコンパクト化、高効率機器の導入、高効率輸送及び低炭素燃料への燃料転換などにより、2016年度は2005年度を基準として16%(売上高原単位)削減しています。</p>

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ○エネルギー使用量等の把握 ○ボイラー空気比の適正化 ○ヒートポンプの導入 ○コージェネレーション設備の保安全管理 ○コンプレッサーの運転管理 ○冷却塔更新及び冷却水ポンプの能力見直しによる電力削減 ○工場、倉庫、構内道路の水銀灯および汎用蛍光灯をLED照明に更新 ○蒸気ドレン回収廃熱の再利用によるボイラー燃料削減
	第1年度	<ul style="list-style-type: none"> ○エネルギー使用量等の把握 各部門の毎月のエネルギー使用量を把握・分析を行ない、原油換算量及びCO₂排出量毎の原単位をまとめ、定期報告を行った。 ○ヒートポンプの導入 空調機の老朽化更新として、2台をヒートポンプ式(空冷パッケージ型)空調機へ取替えを行いエネルギー削減を行った。 尚、今年も継続し取替えを計画しています。 ○蒸気ドレン回収廃熱の再利用によるボイラー燃料削減 生産構成の変更により、蒸気ドレン廃熱利用ができなくなるため回収した温水廃熱を生産用純水へ熱回収化を行い、蒸気使用量削減およびボイラー効率改善を図った。 ○冷却塔更新及び冷却水ポンプの能力見直しによる電力削減 既存の冷却塔老朽化更新に伴い、高効率冷却塔の導入と冷却塔及びポンプ能力の見直し更新を行った。 ○工場、倉庫、構内道路の水銀灯および汎用蛍光灯をLED照明に更新し電力削減 工場屋内蛍光灯及び屋上・屋外照明をLED照明に更新し、メンテナンスの効率化及び消費電力の削減を図った。(屋内蛍光灯1,073台、屋上・屋外照明145台をLED照明へ更新)
	第2年度	
	第3年度	
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	な し
第1年度	な し
第2年度	
第3年度	

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	<ul style="list-style-type: none"> ○お客さまと“いっしょにe c o”を具体化した「アタックN e o」 ○「花王・みんなの森づくり活動」を展開 ○廃棄物の減量化・分別化の推進
第1年度	<p>○ライフサイクル全体を通してCO₂排出量の削減 化石燃料から発生するCO₂排出量を削減するために、研究所・工場・ロジスティックセンター・事務所で、「エネルギー使用効率の向上」と「低環境負荷エネルギーの利用に取り組んでいます。工場においては省エネルギー設備の導入や、高圧蒸気を発生させるボイラーを効率的に動かす緻密な制御、蒸気の有効利用などを行い、燃料使用効率の向上を図っています。又、低炭素燃料の代表である天然ガスを工場に積極的に導入しています。蒸気を多く使用しない工場では、天然ガスを含む化石燃料を一切使わない「化石燃料ゼロ化」に向けた活動も進めています。</p> <p>○異業種企業間でのトラック中継輸送 大手流通企業と共同で、異業種企業間では国内発のトラックの中継輸送を開始しました。中継地点でトレーラーを交換する事でドライバーの日帰り勤務を可能にし、乗務の負担軽減を実現するとともに、実車率の向上により、コストやCO₂排出量を大幅に削減しました。</p> <p>○生製品の集約化・分別化の推進 粉末洗剤生産の国内集約化、ミックスペーパー等の分別回収。</p>
第2年度	
第3年度	

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	41,170	t-CO ₂
(調)	41,704	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等単位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500k1以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	
川崎工場	川崎市川崎区浮島町1番2号	1642	石けん・合成洗剤製造業	41,170 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500k1以上1,500k1未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500k1未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500k1 未満	
300～400k1 未満	
200～300k1 未満	
100～200k1 未満	
100k1 未満	

(3) 事業所等単位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る事 業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--